



発信年月日：令和5年(2023年)1月4日  
所属名：東近江農産普及課東部  
番号：D22017  
部門分類：170(花き)  
発信者名：大堀、丸山、元廣

## 農林水産祭園芸部門で滋賀県初となる天皇杯受賞

令和4年度農林水産祭にて、東近江市で胡蝶蘭栽培を営む有限会社花匠が滋賀県初となる園芸部門の天皇杯を受賞されました。海外とのリレー栽培体系の確立や全自動環境制御設備の導入により、高品質安定生産と高収益経営を実現したことが評価され、この度の受賞に至りました。

有限会社花匠は元々シンビジウムと胡蝶蘭の2品目を生産していましたが、平成17年に胡蝶蘭の単品生産に転換し、海外とのリレー栽培体系の確立や全自動環境制御設備の導入、実需者ニーズへの対応、従業員の福利厚生充実等、経営改善に取り組んできました。

海外とのリレー栽培では、台湾の育苗業者と地道に交渉を続け信頼関係を築いたことで計画的な苗の入荷が可能となり、台湾で育成した大苗を日本で開花させ出荷するというリレー栽培体系を確立しました。これにより育成期間を3年から6か月に短縮し施設回転率を大幅に向上させました。また、全自動環境制御設備の導入においては、当地域の気候に応じた制御プログラムを試行錯誤の上作り上げ、リレー栽培体系の導入と併せ株廃棄率を20%から3%へ低下させました。その結果、近畿トップレベルとなる年間10万株の生産量を達成し、3年間で営業利益を約7.6倍に向上させました。

有限会社花匠の川口代表が経営を行う上で大切にしているのが「常に考え、常に進歩」という祖父の言葉です。冬期低温で日照時間が短く、胡蝶蘭栽培に恵まれた気候ではない滋賀県でも、栽培技術の工夫により高い生産性を実現できることを証明しました。現在もLEDの導入による更なる生産性向上や災害時にも対応できる体制整備といった経営課題の克服に取り組まれています。

当課は、栽培支援や生産者の意識向上につながる機会提供を通し、有限会社花匠のように自主的に経営改善に取り組む生産者の育成に取り組んでいきます。



副知事への受賞報告(令和4年12月16日)



更なる生産性向上のため試験導入中のLED